

「厚木市人権施策推進指針」が 新しく生まれ変わりました



男女共同参画だより No.140

策定の趣旨

厚木市では、平成16年度に、厚木市人権施策推進指針を策定し「人権尊重の地域づくり」を目指してきました。

しかし、近年、新たな人権課題の増加、障がい者、子ども、高齢者を取り巻く様々な事件等が大きな社会問題となり、その都度、解決に向けた法令が整備されるなど、人権に関わる社会環境は大きく変化しています。これらの社会情勢等を鑑み、更なる人権意識の高揚を図るため、指針を改定しました。

主な変更点

平成16年度
の分野別施策

- (1) 子ども
- (2) 女性
- (3) 高齢者
- (4) 障がい者
- (5) 同和問題
- (6) 外国籍市民
- (7) ホームレス

令和元年度
の分野別施策

NEW

- (1) 子ども
 - (2) 女性
 - (3) 高齢者
 - (4) 障がいのある人
 - (5) 同和問題
 - (6) 外国人
 - (7) インターネットによる人権侵害
 - (8) 性的指向・性自認
 - (9) その他の様々な人権課題
- ① アイヌの人々
 - ② HIV感染者・ハンセン病患者等
 - ③ 刑を終えて出所した人やその家族等
 - ④ 犯罪被害者等
 - ⑤ 北朝鮮当局に拉致された被害者等
 - ⑥ ホームレス
 - ⑦ 人身取引
 - ⑧ 東日本大震災等に起因する人権問題

広く17の人権課題への
対応を図ります

厚木市ホームページで
「厚木市人権施策推進指針」
を検索してね！



男女共同参画推進委員会とは 皆さんは「男女共同参画推進委員会」を御存じですか？ 私たち委員は、厚木市の男女共同参画社会の実現のために啓発活動等を行ったり、「ハあモニい」を通して、男女共同参画に関する話題を提供したりしています。そして、性別に関係なく、人々がお互いを尊重し、いきいきと暮らせる社会を目指しています。

編集後記 今回は、東日本大震災で実際に被災地で支援活動を行った保健師に、活動を通して気付いたことを聞きました。この情報が、もものときに少しでも役立つことを願っています。

令和2年3月発行
【編集】
厚木市男女共同参画推進委員会
【発行】
厚木市協働安全部
市民協働推進課
厚木市中町3-17-17
厚木市役所 本庁舎1階

ハあモニい



特集

災害時に求められる 男女共同参画の視点



私たちがめざす男女共同参画社会とは

男女がお互いを尊重し、多様な生き方を選択することが可能で、家庭、地域、職場、学校などにおいて一人一人がいきいきと暮らせる社会です。

災害時に求められる男女共同参画の視点



9年前の東日本大震災や4年前の熊本地震では、男女共同参画の視点に欠ける避難所や備蓄品でさまざまな問題が指摘され、避難所の運営については、女性の目線が必要なことが分かりました。

しかし、昨年、発生した台風15号や19号では、女性や子育て世帯に配慮した避難所運営が徹底されていなかったため、政府でも避難所での女性や子どもへの配慮事項をまとめた指針を見直す動きがあります。今回、改めて性別や年齢、家族構成などニーズの違いに配慮した備えや対策について考えてみましょう。

東日本大震災のときに被災地で支援活動を行った保健師から聞いた... 避難者が困っていたことは？

生理用品や下着が不足



水道が使えずトイレの問題は深刻
(女性だけ行列が...)



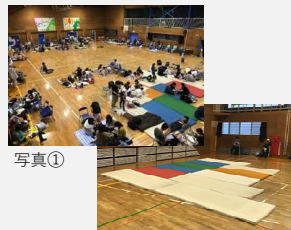
男性リーダーが多く、女性特有の問題を相談しづらい



男女共同参画の視点に配慮した避難所とは？

- 妊産婦や乳幼児のいる家庭用エリアや单身女性、高齢者等の同じ環境や立場の方専用エリア (写真①)
- 異性の目が気にならないような更衣室や授乳室の設置 (写真②)
- 身体的特性を理解し、相談がしやすいよう運営・管理責任者に女性も配置
- 男女別トイレや要援護者に配慮した多目的トイレの設置

台風19号で開設した避難所(緑ヶ丘小学校)の様子 2019.10.12



写真①

▲ 高齢者、乳幼児、障がい者用にマットを設置してエリア分けをした様子



写真②

▲ 体育館のステージを授乳室として使用

災害時に保健師はこんなことをしています！

- 避難者の健康相談や健康管理
- 保健・医療・福祉の情報提供
- こころのケア対策

災害が発生し、避難所に避難したときに、慣れない避難所で体調を崩すこともあります。そんなときには、無理をせずに避難所のスタッフに声を掛けましょう。保健師が避難所に訪問して対応をしたり、必要な情報を提供したりします。

ポイント



災害に備えて、自分や家族に必要な物を準備しておくことが大切です！

基本 非常持ち出し品

- 懐中電灯 下着類 非常食 飲料水 携帯トイレ
- トイレ用紙 携帯ラジオ 工具類 ブルーシート
- 常備薬 お薬手帳 軍手 ごみ袋 貴重品 (現金など)



女性

- 生理用品
- 下着
- 防犯ブザー



東日本大震災では、生理用品や下着が不足していたため、自分に合ったものを準備！

ポイント



ポイント

災害時は母親がけがをしたり、疲れなどで母乳が出なくなることもあるので、粉ミルクの準備を！

子ども

- 粉ミルク 飲料水 (ミルク用)
- プラスチック製哺乳びん 哺乳びんの消毒剤
- 紙おむつ 母子健康手帳
- おんぶひもまたは抱っこひも おしりふき
- 離乳食 (離乳食用スプーン) 着替え
- タオルやガーゼのハンカチ



子どもの成長に合わせて必要な物を！

厚木市では液体ミルクを備蓄しています



- 生後0カ月からそのまま常温で乳児に飲ませられます。
- お湯や水に溶かしたり、薄めたりする必要がないため、水道やライフラインが途絶えたときでも使えます。
- 備蓄場所
厚木中央公園・ぼうさいの丘公園・アミューあつぎ

普段から家庭、地域、職場などで男女共同参画の実践を！

過去の災害の経験から、避難所の環境は少しずつ改善されていますが、いまだに女性の目線が不足しているため、防災、災害復興や方針決定の場、自治会や民生委員等への女性の参画を進めることが求められています。

また、避難所では、性別や年齢、家族構成に違いがある人たちが一緒に生活することになるため、男女の異なるニーズや身体的特性への配慮はとても大切です。違いを認め合い、お互いを理解することが、男女共同参画につながるはずで、災害時に男女がともに支え合い、復興に対応できるよう、普段から家庭、地域、職場などで男女共同参画を実践しましょう。

